

第430回鉄鋼流通問題懇談会

2014年7月29日(火) 13:00

茅場町「鉄鋼会館811号室」

△経済産業省新任担当官 ご紹介 山下隆也 鉄鋼課長
△ " 木村拓也 鉄鋼課長補佐
△ " 成瀬輝男 鉄鋼課長補佐
△ " 後藤真由美 係長

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、東北地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇7月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2014年10月 日 () 14:30 ~ 於:

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2014年7月）

発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	日鐵住金物産
発表項目				
1. 需給動向（景況感）	4月以降建築向けの一服感が継続しており、市中の鋼管製品荷動きは低調継続している。夏場以降の引合は出てきており、流通各社期待している状況。市況についてはシームレス鋼管、ガス管など供給タイトな品種があり、市況は下げ基調にはない状態。溶協メーカーの生産は引続き、本年2月の雪害による農ビ管増産対応継続、太陽光向け架台・杭等の分野への出荷好調を背景に堅調推移する見通し。	2014年5月末の国内向け薄板3品在庫は前月比10.1万トン増の422.9万トンで、2012年1月以来の高水準となり、3ヶ月連続で前月水準を上回った。在庫率は2.24ヶ月と前月に比べ低下したものの、率自体が低いとは言えず、建設分野の着工遅れや輸入鋼材の影響を考慮すると楽観視はできない状況となっている。ただ足元では自動車生産台数は想定を上回っており、建設分野の需要自体は堅調であることから、今後は適正化に向かうものと思われる。	5月末の厚板在庫は401千トで前月比15千ト増。在庫率も229.3%と前月比17.5ポイント増加で2か月連続増となった。一般店売分野は期待感とは裏腹に荷動きが鈍く、足元一服感の様相を呈しており、市況はやや弱含みで推移。	棒鋼：関東地区の6月の発注数量は17.7万トと低調に推移している。大型プロジェクト等は下期から来年にかけて着工のものが多く需要は底堅い。 形鋼：7月ときわ会においてH形鋼は価格据え置きを発表。6か月連続の据え置きで市況は横ばいであるが一部需要家向け販売に動きが出ており、7月に入り出荷量増加。7、8月が市況形成の正念場となっている。
2. 需要産業動向	建築関連は足下の消費増税による反動影響と労働力不足による着工件数の伸び悩みを懸念しているものの、オリンピックによる都市再開発需要への期待している状況。自動車向けは国内向けで消費増税による駆け込み需要反動減を完成車輸出でカバーしていく見通しで、造船分野は引続き新造船受注が堅調で、手持ち工事残は増加している。国内プラント分野も2014年度に入り、回復傾向となっている。建機分野は中型建機の排ガス規制の反動と小型建機の規制前駆け込み需要との相殺で全体としては若干減の見込み。	2014年5月の国内四輪車生産台数は77.4万台で、9ヶ月連続で前年同月を上回った。また1～5月の生産累計は420.9万台で、前年同期比9.1%の増加となっている。5月の国内販売は前年同月比微増の34.3万台と2ヶ月ぶりのプラスとなり、消費増税後の反動減となった4月からは改善の動きが見られた。 民生用電気機器の2014年6月の国内出荷金額は2,507億円で、前年同月比93.2%と2か月連続のマイナスとなった。6月は天候不順であったとともに、消費増税後の影響も残っており、ルームエアコン、冷蔵庫、洗濯機いずれの主要製品も前年実績を下回った。 5月の新設住宅着工戸数は、前年同月比15%減の67.8万戸、季節調整済み年率換算は87.2万戸となった。このところ消費マインドの改善等もあって、堅調に推移してきたが、足元では消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって減少している。	造船の5月手持工事量は2,773万G/Tで前月比34万G/Tの微減。 建設機械の5月出荷金額は内需は前年同月比0.8%減（598億円）、外需は8.8%増（1,050億円）、総合計は5.1%増（1,648億円）で10ヶ月連続の増加。産業機械の5月受注金額は合計で前年同月比165.3%（4,464億円）、内需は143.5%（2,463億円）、外需は203.5%（2,001億円）となった。建産機分野は総じて堅調に推移している。 建築分野は首都圏を中心とした大型再開発案件の着工が本格化した。人手不足、加工能力不足は依然懸念材料として残り、シャーの安定的な稼働にも影響を与えている。	棒鋼：5月の住宅着工戸数は67.8万戸（前年同月比▲15.0%）となった 足元の引き合いはスクラップ価格弱含みにより納期見合いの当用買いとなっており低調気味である。 形鋼：今後の建築案件は堅調に出件している。全国の2014年度の鉄骨需要量は建築物の工程ズレ等のボトルネック要因により前年並み（540万8千ト）に推移すると見込まれる。
3. 輸出入動向	2014年5月度の鋼管輸出量は継目無鋼管：4.6万t（前月比△11%）、溶鍛接鋼管：8.2万t（前月比＋10.5%）。一方、鋼管輸入量は継目無鋼管：0.3万t（前月比＋9.2%）、溶鍛接鋼管：1.5万t（前月比△23.4%）となっている。	2014年5月の普通鋼鋼材輸入量は42.7万トン、前年同月比で32%増と7か月連続の増加となった。薄板の品種別では、熱延15.2万トン（前年同月比＋18.1%、2ヶ月ぶり）、冷延8.8万トン（同10.5%増、5ヶ月連続）、亜鉛めっき鋼板7万トン（同2.2倍、7ヶ月連続）となっている。仕入先別でみると、台湾が2ヶ月ぶりに増加した他、韓国は7ヶ月、中国は6ヶ月連続の増加となっている。	5月の輸入実績は63千トで前月比11千ト減。韓国からの輸入が大幅に減っている。至近では3月の79千トをピークに2か月連続で減少。 5月の輸出船積実績は221千トで前月比5千トの微増。	【鉄筋】日本/輸出 2012年27万mt（内、韓国25万mt、米国0万mt） 2013年24万mt（内、韓国17.6万mt、米国3.4万mt） 2014年1-5月計5.9万mt（内、韓国4.5万mt、米国0.8万mt） 主力の韓国向けが安値中国材の台頭により年々減少。米国向け輸出が昨年より復活。
4. 海外市場動向	（油井管） 世界経済は回復基調に入り、新興国を中心に旺盛なエネルギー需要が持続、原油価格も高止まりが続いており、油井管需要も堅調。米国のシェールオイル生産増は原油価格の下降要因になりうるが、一方でイラク、リビア等内政問題を抱える産油国も多く、当面原油価格は高止まりで推移し、それに伴い油井管需要も堅調推移すると予想される。 （ラインパイプ） 大型プロジェクト案件は動いているものの国際情勢にもより、進捗は遅れ気味。新興国メーカーの輸出ドライブ強まっている。	米国経済は緩やかながら順調に回復軌道を迎っており、欧州経済はウクライナ情勢による周辺国経済への影響等不透明感があるものの、総じて回復基調を維持している。一方、新興国経済は依然低調に推移している。中国は工業生産、企業の設備投資、住宅投資等に勢いを欠き、先行き景気減速への懸念は依然強い。タイは政治的不安定による経済活動へのマイナス影響が引続き懸念されており、主要産業である自動車は、4月の生産（前年同月比25.7%減）、販売（同33.2%減）と大幅減が続いている。	中国では粗鋼生産は増え続け、需給が大きく引き締まる状態にはなく、市況は弱含みで推移。また、原料価格に大きな上昇もなく、メーカーに値上げの動きは見られない。	【鉄筋】 アジア域内は梅雨およびラマダンによる不需要期に入り、商いは閑散。 今年はさらに安価な中国材が大量に流入しており、市況下落に拍車をかけている。 一方、米国・日本のスクラップは、輸出価格が牽引となって高止まり推移しており、高炉メーカーの溶銑コストとの価格差が拡大。そのため、鉄筋を輸出する日本の電炉メーカーはメタルスプレットの十分な確保が難しい状況となっている。
5. トピックス				2014年6月 韓国の現代製鉄、東国製鋼は、政府貿易委員会に中国製H形鋼に対し、アンチダンピング提訴

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言（2014年7月）

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本経済は回復基調を維持している。懸念された消費税増税後の自動車販売・家電出荷などの需要反動減については減少幅を縮小しつつあり、5月の新車販売台数が前年同月比微増に転じるなど、想定よりも堅調な回復が観測されている。一方で建築分野における人手不足による工事遅れ等の影響で在庫は高止まりしており市況への悪影響が危惧される。 ・ 5月末普通鋼メーカー・間屋在庫は577万トン 前月比+1.9%と1ヶ月ぶりの増加 前年同月比+5.3%と高水準継続。同薄板3品在庫は423万トンと前月比+2.5%増となったが在庫率では2.2ヶ月と前月比▲0.1ヶ月となった。依然400万トンを超える高水準で推移している。同厚板シャー在庫は40万トンと前月比+4.0%増となった。 ・ 国内の5月の粗鋼生産は前年同月比▲0.4%の959万トンと2ヶ月連続の前年比マイナスとなった。5月の普通鋼鋼材国内出荷は前年同月比1.1%増の407万トンと11ヶ月連続で増加した。一方で、輸出向け出荷は、前年比▲8.8%減の221万トんで6ヶ月連続の減少となった。 ・ 14年度4-6月粗鋼生産は2766万トン 7-9月の経産省粗鋼需要見通しは2796万トンであり、国内の堅調な需要環境をうけ13年下期（10-3月）比▲0.2%減の高水準を維持する見込みとなっている。
2. 需要産業動向	<p>[建 築] 5月新設住宅着工戸数6.8万戸（前年同月比▲15.0%減）と3ヶ月連続のマイナス。消費税増税前の駆け込み需要の反動が顕著に現れている状況。本格回復に向けては、技能労働者不足等の状況を慎重に見極める必要がある。</p> <p>[自動車] 6月国内販売42.5万台（前年同月比+2.2%増）。2ヶ月連続のプラス。 5月完成車輸出32.2万台（〃▲9.6%減）。6ヶ月連続のマイナス。 5月四輪車生産77.4万台（〃+6.1%増）。9ヶ月連続のプラス。</p> <p>[造 船] 6月末手持工事量 3011万GT（前月比+8.6%、増前年同月比+17.5%増）。6ヶ月連続のプラス。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] 5月の全鉄鋼輸出は、353万トン、前年同月比4.0%減と9ヶ月連続の減少となった。</p> <p>[輸入] 5月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比+32.0%増の43万トンと7ヶ月連続の増加となった。</p>
4. 海外市場動向	<p>海外では、5月の世界粗鋼生産（65カ国）は、前年比+3.5%増の1億4118万トン となった。14年1-5月期は年換算で16億3689万トンと、暦年で4年連続増となった13年の15億5825万トンを上回るペースで推移している。特に中国粗鋼生産は5月7043万トンと前年比+5.1%の増となり月間数量での過去最高を更新した。中国からの鋼材輸出についても5月は807万トンと前年同月比+49.0%増と大幅な伸びを継続し、14年1-5月期は年換算で8145万トンと、13年の6234万トンを上回るペースで推移している。海外マーケットは供給過剰状況が継続しているなか市況は小康状態を保ってはいるものの、各国の経済保護政策や需給バランスの変化に格別な注意を払っていく必要がある。</p>